

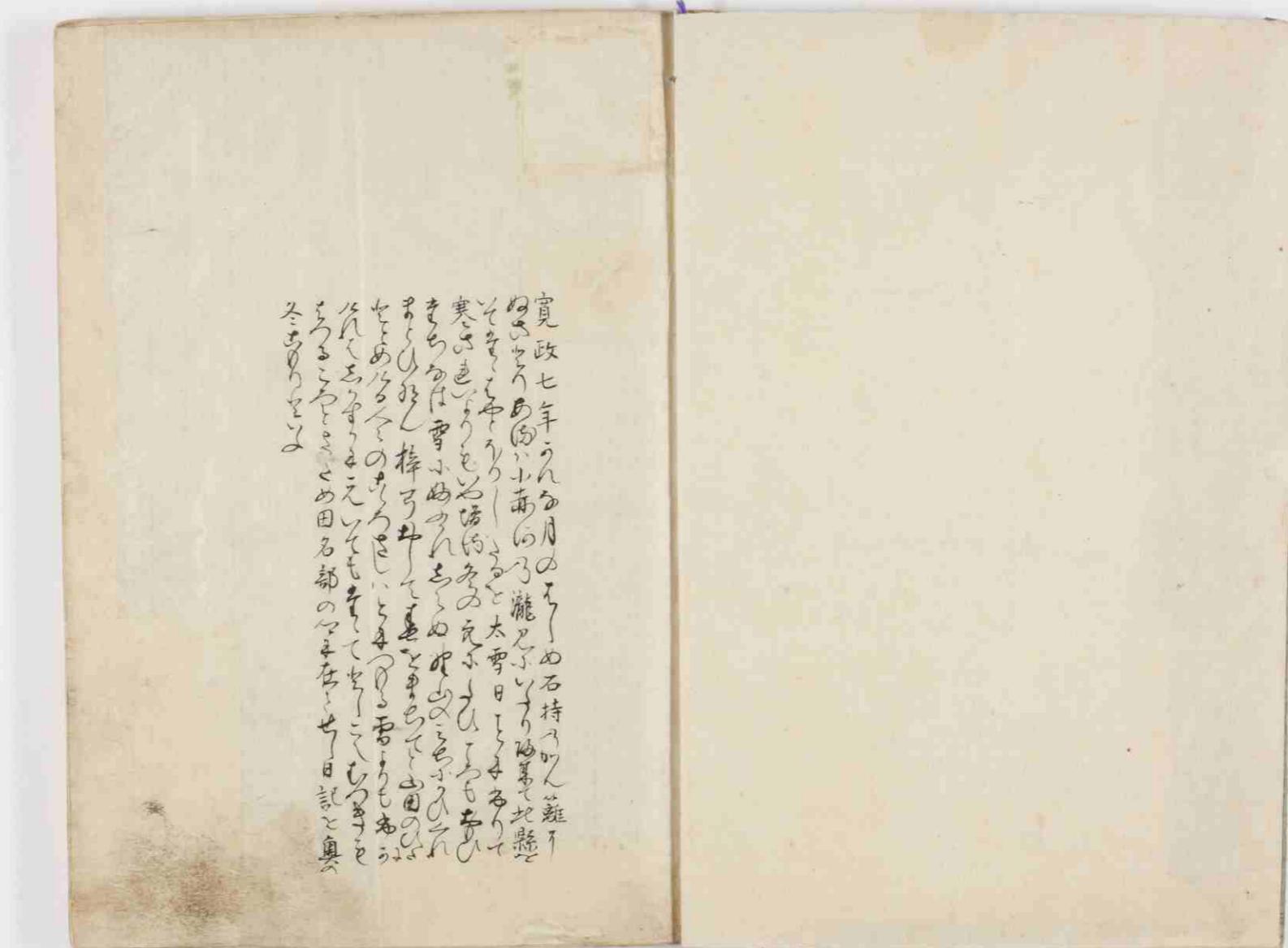
虫食いあり

破損あり

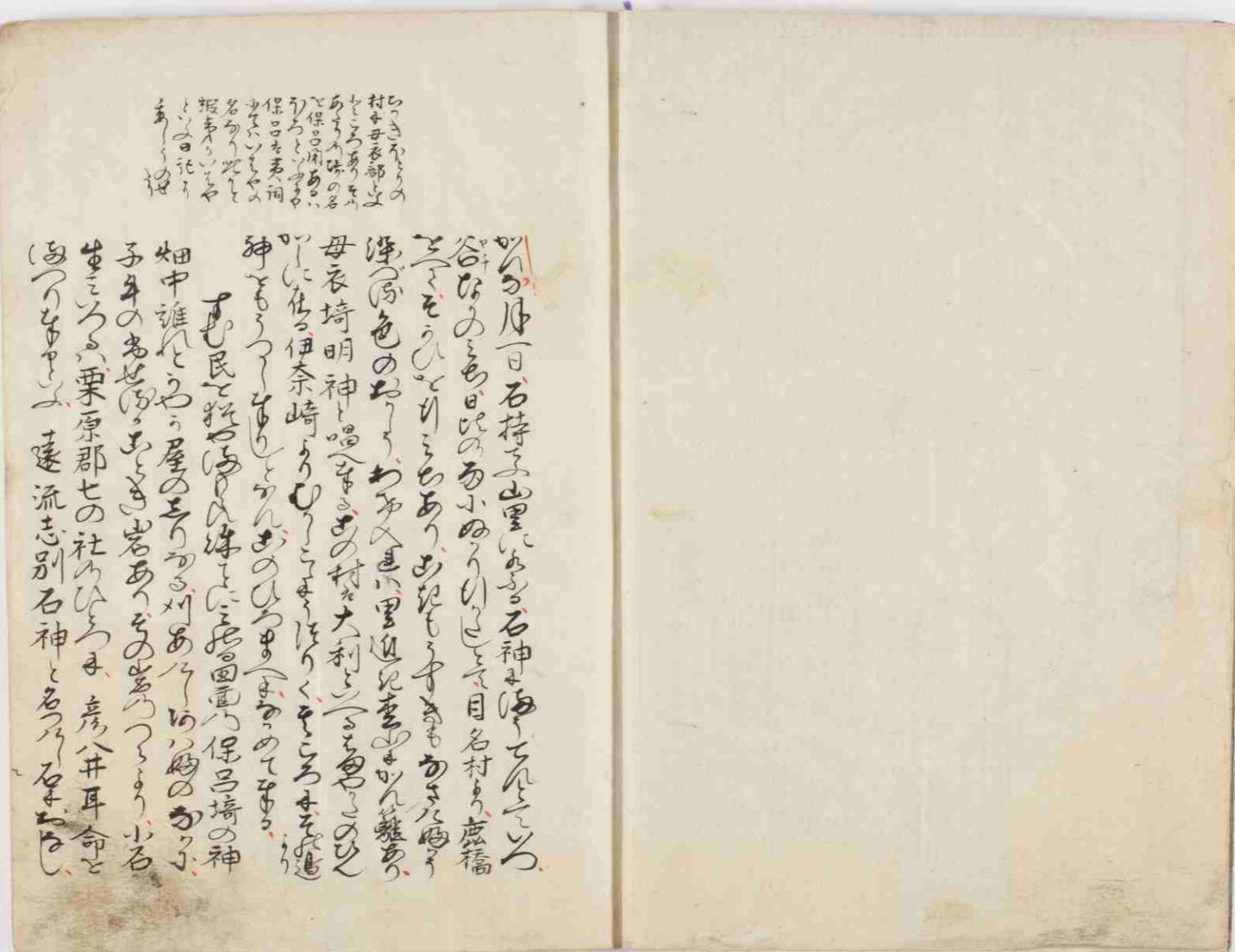
以下 汚れあり

1/19

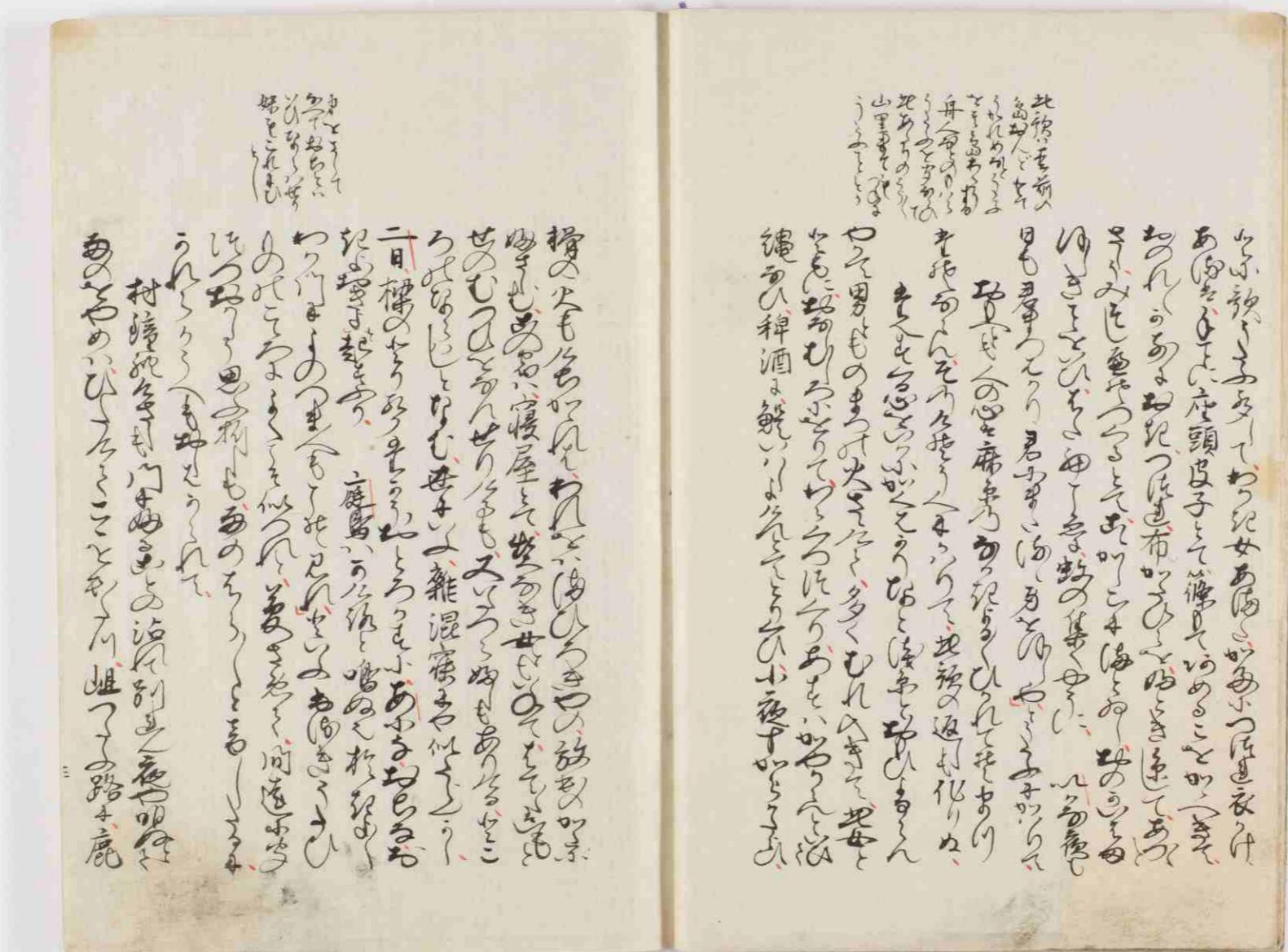




寛政七年二月の不<sup>レ</sup>ぬ石持<sup>アシ</sup>山難  
ゆきやうあ(雨)ハ小高い瀧又下りぬ事て北縣  
そきもく雪<sup>シキモク</sup>も太雪日<sup>ヒタチ</sup>も亦  
寒<sup>シキモク</sup>の色<sup>シキモク</sup>も如<sup>シキモク</sup>の色<sup>シキモク</sup>も亦  
きらかは雪<sup>シキモク</sup>かれ<sup>シキモク</sup>ぬ<sup>シキモク</sup>か  
おひがし梓<sup>シキモク</sup>牛<sup>シキモク</sup>を<sup>シキモク</sup>と<sup>シキモク</sup>山<sup>シキモク</sup>の<sup>シキモク</sup>  
を<sup>シキモク</sup>め<sup>シキモク</sup>冬<sup>シキモク</sup>の<sup>シキモク</sup>も<sup>シキモク</sup>あ<sup>シキモク</sup>  
行<sup>シキモク</sup>も<sup>シキモク</sup>す<sup>シキモク</sup>え<sup>シキモク</sup>も<sup>シキモク</sup>て<sup>シキモク</sup>え<sup>シキモク</sup>き<sup>シキモク</sup>  
らる<sup>シキモク</sup>と<sup>シキモク</sup>と<sup>シキモク</sup>め田<sup>シキモク</sup>名<sup>シキモク</sup>部<sup>シキモク</sup>の<sup>シキモク</sup>在<sup>シキモク</sup>セ<sup>シキモク</sup>日<sup>シキモク</sup>記<sup>シキモク</sup>と<sup>シキモク</sup>奥<sup>シキモク</sup>  
冬<sup>シキモク</sup>あり<sup>シキモク</sup>と<sup>シキモク</sup>











まほしきものあく  
（風子宿あひずれとまき庵の夜宿）  
七日 男の橋へ上り、砧の趣と河水投へる。或の  
じよを一とせん人あそびてゆく。かくまう北無  
やみゆゑとすがさむしゆゑとす。

八日 ちの山家着手とて城主とてんむし。  
山室より茶湯と喫風と竹舟の寝る所とてんむし。  
九日 三宿のとよとよ火とてんむしとてんむしとてん  
むしとてんむしとてんむしとてんむしとてんむし。  
融のとよとよとよとよとよとよとよとよとよとよと  
よとよとよとよとよとよとよとよとよとよとよとよと  
よとよとよとよとよとよとよとよとよとよとよとよと

十日 雨とてふくらぬ強きうらとてんむし。  
足もととくと外車とてんむし。  
施車と説ひてまくぬき檜船と通霧の風  
十九日 復道う冷てあそびてゆく。明けた。雪のやまと  
ゆりぬどもと車のゆりぬどもと車のゆりぬどもと車の  
ゆりぬどもと車のゆりぬどもと車のゆりぬどもと車の

廿日 雨とてふくらぬ強きうらとてんむし。  
蓋とてんむしとてんむし。  
皆同事者とてんむし。  
又皆同治とてんむし。  
子とてんむし。  
久保とてんむし。  
内河とてんむし。

廿一日 奥の御所と神世月をかの時の事ある  
ひつめとてんむし。組盛とてんむし。せんてんむし。  
今朝とてんむし。わざとてんむし。  
かとうとてんむし。とてんむし。とてんむし。とてんむし。

廿三日西の山を出立たる所へあつて此より  
 旗ヶ輪ある處で野太丸を守りて防風  
 廿六日差小庫中すと見て  
 おまめのね夜をかまひ向ふに庭雪  
 廿七日今も之づれ大雪のひつゝとて雪とさうて  
 あもやみ小酒（さかこゑ）ひらかく日の暮して、向ふのモ  
 の飛行（ひきゆき）を吹き落すとて吹き落すとて  
 まのをとて吹き落すとて吹き落すとて  
 多くの山を吹き落すとて吹き落すとて  
 霜（さむけ）ゆけ十日もえ、赤河子浦（あかがしうら）にて、  
 あくとて吹き落すとて吹き落すとて吹き落すとて  
 三とせわとも吹き落すとて吹き落すとて吹き落すとて吹き落すとて吹き落すとて吹き落すとて

お瀧見傳しをよしとて、もととて、もととて、  
 おととて、おととて、おととて、おととて、おととて、  
 四名廻（よめぐり）をまわし、ソコルよりみかま（みかま）とて、水波  
 うん（うん）せん（せん）をくわく、無とて、池田龜丸庵（いけだ かめまるあん）とし識  
 本淳（ほんじゅん）治田水すの裏立麻呂（うらだ まろ）のたか、おおちの城  
 十日、赤の村小いす、あらへとて、おとて、八幡坂（はちまんざか）の  
 の坂傳信（ばんしん）の尾（お）坂とよちて、熱（ねつ）て少々川の  
 みちえ黒森（くろもり）とくよ、ソシヒテ馬（ば）て、おとて、  
 水と流て、さく、筑嶋（つきしま）よもの木（き）の木（き）の木（き）の木（き）の木（き）  
 はいからぬれを吹き洞（ふきのう）をまくすのまれとて、  
 まもうちくねうて、不動石（ふどうせき）をうげせとて、  
 ふくをあわせらう、淵（ふち）とくみえと脚（あし）とありとて





船の中より、北風のあ風が吹き、うねりの、櫟檜乃室の  
よき、籠小判船のすみの大きさとか、おとぎの、  
木の、瓦屋の岬下、船つゝ船あしと手、碇かせ  
をうけと、追まくらまで、船のひくいはしきに、  
あくびをむかへば、船の、あゆの、籠舟、  
あゆの磯邊船を、うねりとも、波を、うねり  
あゆ舟とも、小舟、數あり、  
十九日、船の、小舟、まき、圓柱で、うねりを、あゆ、  
放逐、漁を、せし、船も、せす、十度、波  
うねり、船と、れど、  
ぬる、雪、ほどの、や、千夜、暮、よど、  
又、通す、以、三、月、と、年、も、れど、

十九日、船の、雪、あゆ、と、船と、直躬  
別の、合、あ、て、と、雪、じ、く、あ、と、ひ、く、と、の、そん  
と、ぬ、う、を、と、名、通し、  
めで、あ、と、傳す、活、と、要の、あ、別の、と、思、ゆ  
ぬ、み、と、も、ぬ、と、筆、と、う、と、  
船、も、ま、ゆ、る、と、う、と、雪、ゆ、奥、ゆ、と、船  
と、通す、と、名、通す、  
お、ゆ、れ、別、と、お、高、波、お、み、を、お、心、  
篠、ゆ、る、と、の、い、く、  
あ、れ、を、や、く、ゆ、あ、か、え、せ、と、舟、別、舟、  
と、通す、と、名、通す、  
別、の、袖、の、も、じ、め、と、義、思、し、者、か、人

かのひるをさうて出立。あはれの雪に路の泥濘  
つづぬる。じ馬のりひと多くみうちてくわらゆ  
はの、奥根村もとへれておまかせと、まよふと、まきに  
鳴き音をひきまく、草の音をひく。おも  
さう小さきれど、夜のとて喰事も小洋通り。車  
もかたへる。ぬり小物入る。まよむと、色もそ  
のり小ぬきの料まで、まよふと、色もそ  
もあうて、之がちやれとす。あらう。

まの火の跡も餘てそこと下日替て三日後  
まの、笠をさして下りて、そと御室は廻りて、  
今や、おれはまくらもひ、くそのまもひと、  
まくらをあわらやかくあらがうと、おろく。

此のまことに、直旅うおぐらる。おれはれとよ  
こすあまみやうれで、ある。おれ、机ひんと、こう  
海ひのゆゑを、材とさ與左衛門とひや小を、あら  
風ひの衣引、寒らわれて、ゆく。

二十日、田名府小油村、萬代清湯ひとま  
ゆまよひと、あくま。

聞ふえしや長野、夜もまくまく、路のみを  
よんで、うなづく。

おのれをこまよぬうを、おのれぬらじゆま  
せ二日、西行せ日記と見えて、まよふと、通す。筋とをの  
ゆまよひと、おれをまよふと、通す。

成章

伊寧お中路す。

さむらじの中路なかじへと引く道みち  
 せうりのまへ。  
 あつが葉はを吹ふかすをなすとおゆえ  
 おもふる。  
 姉捨あねすはお風かぜを吹ふたまゆゑ  
 ひのこゑし。  
 いまだうそよん更さらめ姉捨あねすはあら  
 故のへうき。  
 ひのこゑを駆かめよひくとすらし物ものの文草  
 やを吹ふけよ返かへし。  
 名なすて故のの夏なつまに経たどる意いのまへあら  
 おぬか狭布せばふ。

あひ色いろの名聲めいせいの言葉ごんばつひふまうを  
 まひりげまひりげの五ご千せん引ひきの後ご布ふ  
 言ことふ葉はをひひまひひませせせせせせせせせせ  
 千せん引ひきの以いくとひ葉はをひひまひひませせせせせせせせせせ  
 とひんありふれす返かへし。  
 あひ色いろとひ葉はをひひまひひませせせせせせせせせせ  
 一いつの霜月しやくづき十一じゅういちの夜よ月つきをひひまひひませせせせせせせせせせ  
 おおねね紙はを吹ふむよひあは夜よ月つきをひひまひひませせせせせせせせせせ

十二日 おやじの本村あくまで、ひまかく。呂子  
かせぬとうとくめで、ます。後じに  
鉢の木魚火を手火藏する。  
もうと刀を今にらめしもあひてある氣  
口ア西向むうりて此和句とつ防  
雪の一夜とうもさ小金表  
二三日あつて津刈路手越名とつと  
鳴咲毛河原とて紀名残る。  
不村川うると多く、水勺せり。  
萬葉の浮き門あざり生  
十九日 今年常通のひづけのロシヰヤの言葉  
と實えづらをれて。

モウカノス子ヤカ、テレホ、ウエツウエ  
ツラエト、ウエシヤウ、セホウウエツカ

あのうろとわきくとも、

まふくうゆうとよまぬ白雲と指ゆれと

二年地里をせらふてまんとしませ、ちくまよも  
寒いとく身にあね、雪いわきうひうと日  
せひもひくわくわくの軒もくのくわく、ま  
せひもひくわくわくの軒もくのくわく、ま  
もひくわくわくの軒もくのくわく、ま  
もひくわくわくの軒もくのくわく、ま  
和歌山をゆきうぶつれもくぬまくまく  
雪にうあれ、萬葉の浦へ病小あきいかう

せりとりすゆところとくのすれあらる  
きわみにつまくよどもこにち、越後  
高麗まむかうてよひ人へやれをきそく  
つやト叙容のや、高麗舍とすすうほり、  
十一月朔日、雪きよゆく、お中のたのめあ  
そくさきそくにゆのほくひれわてはる、  
すらまくよひ、六十せあすり、あわうせあ  
そし、寒ふる者もくわぬれも、ひよどり  
ありまかと人のじう、五日、蛭子のみま（まゆ）  
にしてやうにあう、日をくわく、ひよどりあえ  
をちやほくつかれ、一間よあめやあくやま  
一せのまくとあく、ひよどりまうえをこす

まくのせのゆひさくにゆき記するあとだき  
けふすけらうよあくう、九日、あらもうち  
でまうりまようかとくぬとくうみ大根ろ、  
おひあま豆のあせとよをああくわくとく  
やくよく（よくとも、やくめ）、わくしめ、あくめ  
のわくやくきくわくされ、うらうのあつらもみま  
じく、ゆひうれいをみよううのゆく  
うひめり、よくねうすらかく、よくももゆのゆ  
かくすあく、大山祇の神とあら、松山賤  
て山あくよう、まあまうひとくとせのやうあ  
じく、鳥總そよまつうけりとれまく算をき  
家のまくとくとあく、す曾をせちとれ

まほ日記  
 憐彼遠遊客  
 被勞鄉國夢  
 明日春將立  
 興風忽滿袂  
 真此一夕如年  
 あま之思慕  
 入者之念  
 もかくの心  
 とぞりる也  
 うそとんでも  
 十五日きうち成章  
 旅愁幾度寬  
 可起歸故嘆  
 莫應年茲闌  
 一夜忍邪寒  
 かくいぬうじ  
 あま之思慕  
 入者之念  
 もかくの心  
 とぞりる也  
 うそとんでも  
 十五日きうち成章  
 中邊  
 少夜も西風  
 中邊  
 中邊

まほ日記  
 憐彼遠遊客  
 被勞鄉國夢  
 明日春將立  
 興風忽滿袂  
 真此一夕如年  
 あま之思慕  
 入者之念  
 もかくの心  
 とぞりる也  
 うそとんでも  
 十五日きうち成章  
 旅愁幾度寬  
 可起歸故嘆  
 莫應年茲闌  
 一夜忍邪寒  
 かくいぬうじ  
 あま之思慕  
 入者之念  
 もかくの心  
 とぞりる也  
 うそとんでも  
 十五日きうち成章  
 中邊  
 少夜も西風  
 中邊  
 中邊

とすがとすらうのせ今年過  
月のちあらぬんじてもあらまく出でま  
廿六日今まみれの年とぞじる後引ひきの年  
月も日も善い鳥があらまゆ年人達づん  
廿八日やうも此ほの小れわう大のものよ  
じきみの神とうそいれど、年よきとりぬ  
大橋う上りておれ、おれはい食する河瀬よ  
**鶯聲**  
**鳴づる年**

ぬの毛衣の年とぞ小まゆる春を度

破損あり

虫食いあり

